

照葉樹林だより

ISSN 1880-8794

てるはの森の会会報 第14号
2009年4月20日



溪谷に映える新緑 綾南川の溪流沿いでは照葉樹とは対照的に数多くの落葉樹が四季の変化を見せています。
4月上旬朝の光に千尋の溪谷を彩るエノキの新緑です。

撮影 坂元守雄

《 目 次 》

- ☆ 照葉樹林研究フォーラム「森と水」報告
- ☆ 里山里海サブグローバル評価
- ☆ 森と都市の交流体験プロジェクト
- ☆ オピニオン 綾の照葉樹林を国立公園に
- ☆ 事務局だより

発行：てるはの森の会
〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島2丁目9-6 みやざき
NPOハウス403号
TEL 0985-35-7288 / FAX 0985-35-7289
E-mail: teruha@miyazaki-catv.ne.jp
URL: <http://www.teruhanomori.com>

照葉樹林研究フォーラム「森と水」報告

会員 林 裕美子

まだ正月気分も抜けきらない1月12日でしたが、綾町の綾川荘で照葉樹林研究フォーラムが開催されました。このフォーラムは、照葉樹林に関する調査研究の情報交換の場として、2007年5月に第1回が開催され、2008年6月には第2回が開催されてきました。綾町では照葉樹林を保護・復元するプロジェクトが動き出しているため、復元の手法に参考となるような話題提供もお願いしてきました。年に1回くらいの頻度での開催を予定していますが、今回は事務局の都合により、1月に番外編として『森と水』と題したミニ講演会という形をとりました。準備期間が短かったこともあり、参加人数を心配しましたが、90名もの参加がありました。

朝10時に主催者と綾町長のあいさつのあと、兵庫県立大学の服部保さんが「照葉樹林の多様性」についての話題提供をしてくださいました。



服部 保氏

日本各地の社寺林の調査から、残されている森の面積が広いほど照葉樹林に見られる植物が多いこと、鹿児島から秋田や岩手までを比較すると、一年で一番寒い月の平均気温が高いほど照葉樹林の植物の種類数が多いこと（宮崎は2番目に多い）、成熟した照葉樹林では、地上に根を張る種類はそれほど多くないが、巨木の幹につく着生植物の種類が多いので、全体として見ると多様性が高いことになることなどをお話してくださいました。膨大なデータを使って照葉樹林の特徴を見つけ出す作業はたいへんなことだと推察しました。発表時間を20分でもお願いしたのが、申し訳なく感じられました。

2番目に、森林総合研究所の齊藤哲さんが、「台風が来たときの照葉樹林の被害について」お話し

くださいました。世界のさまざまな森林が台風・ハリケーン・竜巻などで受けた被害（幹が折れたり、



齊藤 哲氏

木が倒れたり傾いたり）を調べた結果、照葉樹林は風の被害を受けにくい森であることがわかったそうです。また、風で幹が折れたり木が倒れたりする度合いが、樹種によって違うことも明らかになっています。イスノキとサカキは折れにくく、イヌガシ、タブノキ、マテバシイは、被害を受けやすい樹種です。長い目で見ると、折れにくい木が残るため、綾リサーチサイト（森林総研の調査地）などの成熟した森ではイスノキとサカキが多いそうです。照葉樹林が台風の被害を受けにくい森であることとも関係があるかもしれません。

森は人の生活になくってはならない自然環境です。森そのものとしても大切ですが、そこからは水が流れ出て、森に住んでいない下流の人たちの生活にも影響を及ぼします。照葉樹林の保護・復元は、川の環境にも無関係ではないはずとの思いから、川から森を見つめるという視点があってもよいと考え、後半は河川環境の調査に携わっているお二方にお話しをお願いしました。



寺井 久慈氏

中部大学の寺井久慈さんは、「森と川と海をつなぐ市民活動と教育・研究活動」と題して、市民・研究者参加型の「森の健康診断」と、山・川・里・海という流域全体を対象にした「三河湾流域ネットワーク」の活動をご紹介くださいました。2000年の愛知県の集中豪雨では、山林崩壊が起き、伊勢・三河湾では海底の酸素が足りなくなってアサリが大量死するという事件がありました。海の環境は川の環境の影響を受け、川の環境は森の環境の影響を受けることから、2005年に矢作川流域を調べる森の健康診断が始まりました。調査と聞くと、専門家が高価な機材を使って難しいことをする活動を思い浮かべるかもしれませんが、身近にある簡単な道具で、市民が楽しみながら森の状態を調べることができます。愛知県で始まった活動が、日本全国に広がっています。「土岐川・庄内川源流 森の健康診断」は、庄内川の上流と下流の交流として始まり、森林組合や多数の中部大学生が参加する活動に発展しています。



村上 哲生氏

最後の、名古屋女子大学の村上哲生さんの話題は、「川の市民調査」についてでした。なぜ市民が自分の時間と費用を投じて市民調査をするのか、という問いかけから始まりました。環境を変えるような開発をしたい者と、変えずに保護したい者とが公開の場で議論を深めていくための共通の言語として、科学的な観測データが重要だとのお考えです。木曾の三つの河川で一斉に水の濁りを測定して上流のほうが濁っていることを見つけた例、熊本県の球磨川・川辺川で、ダムがある川では濁りが長期化することを示した昼夜連続調査の例、天竜川で8年間毎日の濁りを調べてダムの影響を調べた例、諫早湾で漁師さんが一斉に船を出して、問題の潮受堤防付近で酸素が少なくなることを示した例など、興味深い事例をお話くださいました。簡単な調査道具もご紹介くださいました。まずは、身近な環境で、できることから調べてみませんか。詳しく調べたくなったら、

専門家に相談してみるのも手です。日本自然保護協会が全国で行なっている市民調査（モニタリング1000）もあるそうです。

4つの話題提供のあとに、4名の講師に河野耕三さんと朱宮丈晴さん（日本自然保護協会）を加えてパネルディスカッションが行なわれました。会場からの質問や意見もたくさん出て、活発な意見交換ができたのではないかと思います。



パネルディスカッション

このフォーラムは、てるのは森の会が主催しています。準備や当日の運営には、たくさんの会員が関わっていただきました。会場の後ろには、森の素材で作った作品や、昨年10月の日本陸水学会で発表された沢調査のポスターも展示され、参加者には落葉（コバントビケラの切抜き葉っぱ）のしおりが配られました。



コバントビケラの切抜き葉っぱのしおり

まだ終わったばかりですが、次回フォーラムはきたる11月に、森林総合研究所との共同開催を予定しています。綾リサーチサイトを始められた名古屋大学の山本進一教授に基調講演をお願いすることを考えています。講演だけでなく、会場内でポスターや作品の展示もしたいと思います。自分で調べたり、作ったりしたものは、人に見てもらったり、聞いてもらったり、意見をもらったりすると、前向きな発展があります。そのような話題や素材をお持ちの方は、ぜひ、てるのは森の会へご連絡ください。

(はやしゆみこ・

HAYASHI 英語サポート事務所・宮崎市)

里山里海サブグローバル評価（西日本クラスターレポート）

—宮崎県綾町周辺の過去 50 年間の生態系サービスの変化とその要因—

（財）日本自然保護協会 朱宮 丈晴

《ミレニアム生態系アセスメントとは？》

皆さんはミレニアム生態系評価（MA）という取り組みをご存じでしょうか？世界の研究者や環境・開発分野の関係者が実施した、世界初の総合的な地球規模の生態系評価です。アナン前国連事務総長の呼びかけにより 2001 年から 2005 年の 4 年間にわたり 95 カ国 1360 人以上の科学者によって評価が実施されました。対象とする生態系は森林、山岳、乾燥地、沿岸、海洋、耕地、都市などに分けられています。山岳生態系の作業部会では元東京大学大学院教授の大澤雅彦先生も参加されていました。評価の目的は、①生態系の変化が人々の暮らしに与える影響を評価し、生態系の変化に対し私たちがとるべき行動の選択肢を提供すること、②情報提供のための関係者の能力育成を行うことです。すなわち、評価をして 50 年後のシナリオを提供するだけでなく、そのプロセスを通して関係者間の情報共有や能力向上をすすめていこうという教育的意図もありました。評価の方法が独特で、生態系（自然）から人々が得る恵みを「生態系サービス」として定義し、生態系と人々の暮らしのつながりに焦点をあてているのが特徴です。生態系サービスは①食糧や水、木材、燃料などを供給する「供給サービス」、②洪水や気候の調整といった「調整サービス」、③レクリエーションや精神的・教育的な恩恵を与える「文化的サービス」、④栄養塩の循環や土壌形成のような「基盤サービス」に区分され、生態系サービスの変化がどのように人間に影響を与えるかを検証しました。また、多くの科学者が参加する会議のとりまとめは、困難を要することが容易に想像できますが、階層的な管理体制をとって実施されました。すなわち、国際条約、国連機関、国際科学組織、政府、民間企業、NGO、先住民組織からなる「評議会」が全体を統括し、下部組織として「評価パネル」、「レビュー委員会」が評価の技術的な作業を監督し、さらに 4 つの作業部会（①現状と傾向、②シナリオ、③対策、④サブグローバル評価）によって実際の作業がおこなわれました（参考、横浜国立大学 21 世紀 COE 翻訳委員会 2007）。

《サブグローバル評価へ》

地球規模の評価に加えて各地の事例をサブグローバル評価という形で実施しました。世界各地の 34 カ所で行われた評価は小規模村落から国境を超える規模まで様々でしたが、この時、日本では実施されませんでした。そこで、第 10 回生物多様性条約締約国会議（CBD COP10, Convention on Biological Diversity, Conference

of the Parties）が 2010 年 10 月に愛知県名古屋市で開催されるのを契機に、日本のサブグローバル評価を実施することになりました。その背景には、2010 年は国連の定めた「国際生物多様性年」であり、2002 年の COP6（オランダ・ハーグ）で採択された「締約国は現在の生物多様性の損失速度を 2010 年までに顕著に減少させる」という「2010 年目標」の目標年にもあたります。COP10 は生物多様性条約にとって節目となる重要な会議となっており、日本としてもきちんとした評価を示していく必要があるわけです。

事務局は国連高等研究所（横浜）が担当し、2006 年 11 月には国連大学高等研究の附属機関である いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット（金沢）でデザインミーティングが開催され、検討が始まりました。この過程で、日本の生態系の特徴でもある里山、里海を評価対象とすること、評価対象サイトを公募すること、管理体制（評議会、科学評価パネル、作業部会）が確認され、評価の方法は MA における枠組みを踏襲することになりました。

《綾を評価対象サイトとして提出》

ご存じのように 2005 年より綾の照葉樹林プロジェクトが官民協働で実施されています。プロジェクトでは取り組みに賛同してくれる協力者を増やしていきたいということ、広く取り組みを紹介してさらなる発展につなげていきたいという目標をもっていました。また、この取り組みは国際的にも価値が高いと考え、2007 年 8 月にサイトが公募された際に、日本自然保護協会から綾を対象地域として提案書を提出しました。



第 1 回クラスター会議のようす（金沢） 08.9.18.

2008 年 2 月には第 1 回調整役代表執筆者会議（Coordinating Lead Authors Meeting, CLAs）が開催され、提出された 19 団体からのサイトの概要と生態学的、気候学的、人口学的、社会・経済学的観点からサイトを 5 つに区分しました。その後調整して最終的に北海道、東北、

北信越、関東・中部、西日本という地域（クラスター）ごとにレポートをとりまとめるとともに、このレポートをベースに国レポートを作成することになりました。綾のサイトは西日本クラスターに位置づけられました。

2008年9月に第一回クラスター間会議（金沢）が開催され、全体の執筆方法やクラスター関係者ごとに詳細な執筆内容の検討が行われました。

《綾周辺の生態系サービスの変化》

さて、ようやく綾の話に入ります。実際に、このMAの枠組みを使って綾周辺の過去50年間の生態系サービスの変化とその要因について検討をしました。検討にあたっては毎月実施している綾の照葉樹林プロジェクトの調整会議を活用しました。記述内容に関しては決められているので綾周辺で特徴的な生態系サービスの変化、すなわち国有林交換中止にはじまる自然保護行政への転換、有機栽培農業を中心とした循環型農業経営の推進、観光施策による資源活用に焦点をあて、生物多様性、林業、農業、漁業、畜産、観光がどのように変化し、それが人間の福利にどう影響したのかを明らかにしました。執筆者及び協力者は17名になりました。データは、各執筆者の独自のデータだけでなく宮崎県、綾町の統計資料、国の農林業センサス、漁業センサス、綾町郷土史などを用いました。

その結果を図1に示します。

ちょっと、わかりにくいのですが、要約すると次のようになります。綾北川・綾南川ダム建設、堰堤築堤によって洪水が減り、安定的な農業や生活ができるようになりましたが、河川環境は大きく変化し、黄金のあゆをはじめとする内水面漁獲量は減少しました。また、拡大造林による人工林化が進む中で、照葉樹林の一部を残した結果、おそら

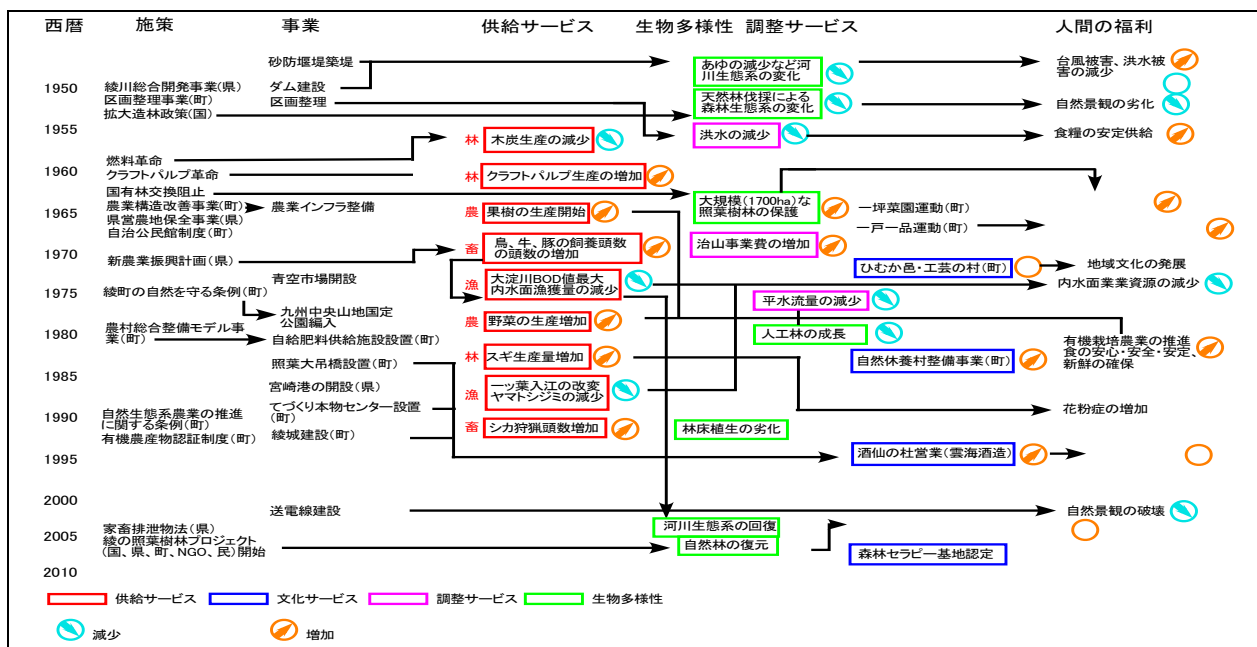
く町内の木材生産量は相対的に減少しましたが、その後の照葉樹林を核とした観光業にとって大きな資源となり、地域の経済活動生産量は相対的に減少しましたが、その後の照葉樹林を核とした観光業にとって大きな資源となり、地域の経済活動が活発になりました。その後の綾の照葉樹林プロジェクトや森林セラピー基地の認定など新しい動きにもつながりました。有機栽培農業の推進は、畜産業の発展を基礎に糞尿を液化肥料にして循環し、化学肥料によらない農業として綾町農産物のブランド化に成功し、結果として食の安全、安心、安定、新鮮という人間の福利に直接大きなプラスの影響をおよぼしました。同時に観光業に対しても大きなアドバンテージを与えたと考えられます。綾の町づくりのこれまでのあり方は、人間の福利の向上に重点をおいた各取り組みの重要性を示しているといえます。

《将来に向けて》

最終的にSGAでは評価した結果に基づいて50年後の将来の筋書き（シナリオ）を想定します。現在のところ基調条件は人口減少、高齢化が検討されています。また、重要な軸としてグローバリゼーション、リージョナリゼーション（地域化）、自然環境に対する人々の希求度（順向、逆向）、都市と里山間の人口移動などが検討されています。都市化が進み人々の自然への希求度が進めば、里山への移動が進み、リージョナリゼーションが進みますが、一方で、今後ますますグローバリゼーションの波が押し寄せて、都市への移動が進むかもしれません。SGAの取り組みは考えるよい機会を与えてくれます。綾の50年後の姿はどうなっているのか？皆さんは想像しているでしょうか。

（しゅみやたけはる・（財）日本自然保護協会・横浜市）

図 1



引用文献 横浜国立大学 21 世紀 COE 翻訳委員会 (2007) 国連ミレニアムエコシステム評価—生態系サービスと人類の将来—、オーム社

森と都市との交流体験プロジェクト

NPO法人木の家だいきの会 鈴木俊治

NPO 木の家だいきの会は、「森に緑を住まいに木を」を活動理念として、東京、埼玉を中心に、地元の国産材を使った家づくり活動等を行っています。森を守るには森のある地域の活性化が必要です。そのため森と都市との交流を拡大し、多くの人たちが森のある地域を訪れ、実体験を通してその価値を知り活動することが大切です。

本会では、企業のCSR（社会的責任）として環境保全活動が重視されていることから、それをきっかけとして森と都市との交流を進めるべく、国交省「新たな公」事業の採択を受けました。

てるはの森の会、綾町役場、宮崎県庁に事業パートナーになっていただき、宮崎と東京で「森と都市との交流体験プロジェクト」を開始しました。東京及び宮崎市で募集した企業CSR関係者など合計17名が、2008年11月14日（金）～16日（日）の3日間綾町を訪問し、様々な交流体験をしました。主なものを紹介します。

●郷田美紀子さんと薬膳料理@オーガニックごうだ
行程の最初に、郷田美紀子さんのお話を聞いたことは、照葉樹林に対する人々の思いやこれまでのご苦勞を理解するうえで、大変有意義でした。自然を守ること、自然をベースに生きることが綾町にとっていかに大切か、少しわかったように思います。気候風土に見合った薬膳料理は、郷田さんの生き方そのものを表現していました。

●早川ゆりさんと有機野菜収穫体験@早川農苑
有機農業による食物づくりをとおし、命の大切さを訴え実践されている早川さんのお話で、心に栄養をもらいました。有機農業は「共生」がキーワードで、人間と虫や地中の微生物等が共生します。野菜もすべて人間が取ってしまうのではなく一部は虫に残すこと、雑草もすべて取り除くのではなく残すことが、人間と虫との共生に必要です。人間も自然界の一部であることが、素直に感じ取れました。また、食を通して青少年の心のケアをされていることには大きな感銘を受けました。

●李道地区との交流会

李道公民館長森山さん、地域づくりWGの長峯さんはじめ李道地区の皆さんのご厚意と協力により、約50名が参加して地元のみなさんと料理をいっし

よにつくり、いただきながら交流の時を持ちました。都市から森への一方通行ではなく相互交流が大切なこと、地域の誇りと流儀が尊ばれていること、豊かな自然の恵みに基づいて密なコミュニティができていたことを実感しました。

●照葉樹林の間伐体験

森林管理局の皆さんの指導で、照葉樹林再生のため、スギ間伐を行いました。手ノコ作業では直径20cmほどの木を伐るのもかなりの労力です。森に光を入れ、数十年後に照葉樹林が再生されるという遠大なプロジェクトです。微力ながらその一端を担い、時を越えた人の繋がりに加わりました。スギは数十年前に先人が苦勞して植えたものですが伐り倒されたままになっておりその利用が必要なこと、自然に対する人間行為の意味も考えさせられました。木を伐ってストレス解消になった、また参加したい！という者もありました。



間伐作業

●照葉樹林ガイドツアー

ガイドさんの案内で2時間ほど歩きました。ある参加者は「もののけ姫の森があった」と言いましたが、老木あり、ひこばえあり、まさに諸々の命や霊が宿っている森でした。市内から数十分のところにこの深遠な自然があることを普段は忘れがちですが、自然に囲まれて私たちは生きていることを改めて思い起こさせてくれます。

●おわりに

今回の交流体験では、てるはの森の会の皆さん、綾町や宮崎県、そして東京の多くの素晴らしい人たちと交流できたことが大きな楽しみであり収穫でした。森と都市との交流も人のつながりあってのものです。一度で終わらせず継続的な交流をお願いします。

（すずきしゅんじ・

NPO法人木の家だいきの会・東京都

～支えられて～「てるはの森

♪エッセの会♪

会員の皆様、始めまして。

昨年 9 月から、「てるはの森の会」事務局の仕事を担当しています相馬です。今回は事務局のことについてお話ししましょう。

事務局は、宮崎市役所近くのみやざき NPO ハウス(宮崎県の旧独身寮)4階にあります。NPO ハウスは、ユニセフ等 NPO 関係の団体が 20 団体ほど入居しています。2 階には NPO 法人アジア砒素ネットワークもあり、本会代表の上野登先生の書斎もあります。

事務局の仕事は、主に 2 つ。1 つは、綾の照葉樹林プロジェクト連携会議事務局の仕事。これは月 1 回の連絡調整会議と年 2 回の連携会議の準備です。もう 1 つは、勿論「てるはの森の会」の活動です。また照葉樹林ガイドボランティアにも同行し、綾プロジェクトの普及啓発も行っております。

事務局は、事務局長石田達也と相馬で運営しており、会員の皆様にさまざまな形で助けていただいています。

この「照葉樹林だより」は、事務局が編集・印刷をしていますが、編集委員の坂元守雄さん、小川渉さん、林裕美子さんに記事執筆者の決定や助言・校正を手伝っていただいています。

また、毎月第 3 火曜日の 19 時、NPO ハウス会議室にて「てるはの森の会」定例会を開催し、上

野代表他、会員の皆さんが参加して、活動報告や事業計画などを話し合っています。

本号の前頁で報告をしている沢調査も、会員の林さんを中心に、大津留司・タカ子さんご夫妻、藤本綾子さん達会員の皆様のご協力で、月 1 回行われてます。

本会の最大行事の年 2 回行われるボランティア復元作業も日本自然保護協会の指導の下行われる林床調査活動も、会員の参加で行われています。今年度は榑町有林の調査も始まり、林床調査の機会も増えます。植生の知識のある方はもちろん、初めての方も記録係(私はこれ専門です)も必要です。是非ご参加ください。調査に参加して森の奥で足を運び、専門家の説明を聞けば、綾の森の魅力を再発見できるはずですよ。

そして全ての活動に指導・協力をしてくださる河野耕三先生。私が事務局を引き継いだばかりで行事参加者の確保に困っていた時、心配して方々へ参加お願いの電話をかけてくださった高松郁男さん。調査活動をはじめ必ず参加して下さる守田達朗さん。照葉樹林ガイドボランティアの皆様。本当に感謝しています。

このように多くの会員の皆様に支えられ、日々の活動が行われています。

そうまみさこ・事務局・宮崎市)



事務局から

◆「てるはの森の会」関連行事

- 2月 5日(木) 第8回地域づくりワーキンググループ
7日(土) 綾げんだぼの森づくり植林作業
10日(火)NPO法人木の家だすきの会報告会
12日(木)第4回照葉樹林文化館市民協働協議会
15日(日)綾町公民館大会発表
17日(火)てるはの森の会定例会
21日(土) 22日(日)ガイドスキルアップ講座
25日(水)JICAコロンビア国研修
26日(木)第5回照葉樹林文化館市民協働協議会
3月 10日(火)第9回連絡調整会議
14日(土)春のガイド付き体験ツアー
16日(月)情報収集活用設計検討委員会
20日(金)春のガイド付き体験ツアー
24日(火)てるはの森の会定例会
4月 21日(火)第1回連絡調整会議
20日(月)～22日(水)
屋久島生物多様性保全協議会来訪
5月 9日(土)10日(日)森林の市

◆写真集「綾の森と暮らす」完成！

内閣府の「官民パートナーシップ事業」を受け、作成していた写真集「綾の森と暮らす」が完成しました。



写真はモノクロで、主に1950年代の綾の森での暮らしの写真を掲載しています。ページ数95ページ、1,000部作成しました。

「森」「木を伐る」「山の暮らし」「里の暮らし」「今の暮らし」の5つのテーマに分けています。

編集委員の皆さんが、写真を集めたり、写真を持って聞き取り調査に行ったりして資料を集め、すばらしい写真集となりました。ご希望の方は「てるはの森の会事務局」までお申し込みください。

◆森林の市に参加します！

東京日比谷公園で開催される「森林の市」に参加します。照葉樹林クイズに答えて綾町特産の日向夏をもらおう！

- 日時 2009年5月9日(土) 10:00～17:00
5月10日(日) 10:00～16:00
場所 日比谷公園：にれの木広場・第2花壇

◆照葉樹林文化シンポジウム2009

- 日時 2009年5月10日(日) 10:00～
場所 綾町サイクリングターミナル
綾町北俣3765 (TEL 0985-77-1227)
10:00…集合：ターミナル体育館北側駐車場
●「森に触れる」ネイチャーゲーム体験
12:00…昼食(各自持参) ふるまい食準備
●「文化シンポジウム」
13:30…開始：挨拶 14:00…基調講演
「自然の終焉と生活文化の復権」
飯田辰彦氏(ノンフィクション作家)
「宮崎の宝を考える、生かす」
渡辺綱とも氏((財)宮崎県芸術文化協会会長)
16:00…パネルディスカッション 17:30…終了予定
●「交流会」18:30～ 綾川荘(参加費3,000円)

◆主催 照葉樹林文化シンポジウム2009実行委員会

◆申し込み及び問い合わせ先

綾町：郷田美紀子 TEL 0985-77-0045

会員募集中！

「てるはの森の会」では、綾の照葉樹林プロジェクトにご協力いただける会員を募集しております。

| | | |
|-----|----------|--------|
| 年会費 | 個人サポート会員 | 2000円 |
| | 家族サポート会員 | 3000円 |
| | 団体サポート会員 | 5000円 |
| | 法人サポート会員 | 10000円 |

会員になっていただくと、照葉樹林やプロジェクトに関する情報を掲載した「照葉樹林だより」を年4回お届けします。プロジェクトが実施するイベントや各種行事に参加できます。

詳細は事務局までお気軽にお問合せください。

協賛企業



オーブ・ビック財団
公益財団法人オーブ・ビック財団は、
設立10周年を記念し、日本で初めて全国
展開する「森林の会」を創設しました。

